

第3学年3組学級活動学習指導案

1 単元名 「進路をつづる」(※「進路適性の吟味」(3)ーウ)

2 本時 平成30年11月12日(月) 第1校時 第3学年3組教室

3 本時の指導観

3年3組の生徒は4月から数回、「春休み一番心が動いた一コマ」「平和学習の一コマ」「高校出前授業の一コマ」などを展開的過去形でつづる取り組みを行ってきた。本時の授業は、進路を決定する三者面談を前に、進路について丁寧に考える取り組みである。そのために、「進路について考えた場面」「進路について家族や友達と話した場面」「進路を通して気づいた場面」について構想表を書き、展開的過去形でつづる過程で、一つ一つの場面を細かく思い出させ、進路に対する考えを整理し、進路獲得への熱意を高めさせたい。

4 主眼

卒業生のつづり方を讀んだり、「進路について考えた場面、進路について家族と話した場面、進路を通して気づいた場面」を思い出し構想表とつづり方を書いたりする過程で、進路に対する考えを深めさせる。

5 どのような思考ツールを活用して、生徒の考えを広げたり深めたりするかの工夫点(本年度の重点項目)

※進路について考えた場面を、順序立てて丁寧に振り返らせるために、「生活綴り方題材メモ」「生活綴り方構想表」「展開的過去形表現用の原稿用紙」を使う。

6 準備

※卒業生のつづり方、生活綴り方題材メモ、生活綴り方構想表、展開的過去形表現用の原稿用紙

7 展開

段階	学習活動・学習内容	具体的な支援	評価の観点(方法)
つかむ ／ さぐる ／ 深める ／ まとめる	1 前時で書いた3組生徒の作文を読む。	○大まかに思い出しているため、ほとんどの文章が「す」「る」などの現在形で終わっていることに気づかせ、きめ細やかに生活を振り返ると文末が過去形「た」になることを教える。	生徒が書いた構想表とつづり方を讀んで、進路に対する考えを深めたかを讀み取る。
	めあて 「受験生の暮らし」の一コマを展開的過去形で書こう。		
	2 卒業生のつづり方を讀む。 ※「進路 おばあちゃん 自分らしく おやじ 夢に向かって ソフトへの決意 柳川高校体操部 先輩から学んだこと 勉強より大切なもの 合格発表 勉強しよう 受験生 がんばれる 入試当日の朝 高校を変えたこと ともだち 私と小さいころからの夢」から選んで讀む。	○自分を成長させるには、生活を丁寧に振り返る必要があり、生活を丁寧に振り返るには、一コマ一コマを丁寧に思い出して順序良く書く「展開的過去形表現」が有効であることに気づかせる。	
	3 構想表を書く。	○一コマ一コマを丁寧に思い出させるために、「会話文」「心の中の言葉」「自分の体の反応」「まわりの様子」に分けて思い出させる。 ○思い出せないときは、よく見て、よく聞いて、よく考えるというよい生活ができていなかったことに気づかせる。	
	4 つづり方を書く。	○だれにもよくわかる表現力をつけるため、展開的過去形で書かせる。	
5 卒業生の個人文集をみる	○進路に揺れた卒業生の三カ月にわたる個人文集をみることで、進路に迷ったときは、今日のように文章にして、考えを整理する方法があることを伝える。		

※課題:「進路について考えた場面」「進路について家族と話した場面」「受験生である私が、家族になにかをしてもらった場面」「受験生である私が家族に迷惑をかけた場面」について題材を3つ準備しよう。

題材①

いつ	どこで	だれと
おもな会話		
心の中のことば		

題材②

いつ	どこで	だれと
おもな会話		
心の中のことば		

題材③

いつ	どこで	だれと
おもな会話		
心の中のことば		

() 番 名前 ()

【授業の実際】

○つかむ段階について（既習事項とのズレ・隔たりから内面に生じた問い・課題を設定する場面）

前時に該当クラスの生徒が書いた文章「受験生の暮らしの一コマ」を読み聞かせた。生徒はクラスメートの文章を紹介したため関心を持って聞いていた。その後、卒業生が展開的過去形で書いたつづり方を読み聞かせ、題材の選び方、表現の仕方の指導を行った。

展開的過去形で書かれた卒業生のつづり方は、会話文と心の中の言葉が、その時の様子と共に書かれていた。生徒の多くが、おおまかにまとめて書くのではなく、その時の場面と心の中が映像として伝わるように書くのだ、ということに気づいたと思われる。

○さぐる～深める段階について（思考ツールを活用して自己内対話をする場面）

「受験生の暮らしの一コマ」（「進路について考えた場面、進路について家族と話した場面、進路を通して気づいた場面」）を、「会話文」「心の中の言葉」「自分の体の反応」「まわりの様子」に分けて思い出させた。生徒たちは、きめ細やかに思い出しながら構想表を書いていた。

○まとめる段階について（自分の言葉でまとめる場面）

構想表が完成した生徒から、原稿用紙に展開的過去形でつづり方を書き始めた。時間内に終わらなかった生徒は、自宅などで書き上げて後日提出した。

【授業の考察】

三者面談の一カ月前ということもあり、生徒は進路について真面目に考えており適時の活動であった。後日、完成したつづり方を学級で読み聞かせた。見慣れたクラスメートが自分の進路を真剣に考えていることが伝わり、自分の進路への熱意を高め、友だちと出会い直す契機となった。生徒のつづり方を掲載する。

BUDDY

自分は、行きたいと思う高校がない。そう考えている時でした。龍谷高校から、練習会に誘われた。自分は、全くその高校に興味はなかったが行ってみた。

練習会では、アピールができて、調子もよかった。

練習会が終わり、コーチと話す時間があつた。Aという小学校からの友達もいた。

「二人とも、うまいし、伸びしろがたくさんある。」

と言われた。

しかし、自分はその時、寮に入るのがいやだった。だから、あまり行きたくはなかった。しかし、Aは、

「小学校から全国目指しよつたやん。オレらやったら寮入ってもやっていけるやろ。」

そう言った。

自分は、小学校からAと全国を目指してやってきた。中学校では、あと一步のところまで終わった。だから親と話して、

「龍谷行って、Aと全国行きたい。」

そう言った。するとお母さんは、

「Aがいっしょやけん、たくさんバカするやろうけど、二人でちゃんと頑張りなさい。」

そう言った。

志望校は決まった。全国への挑戦を踏み出した今、早く高校で暴れたい。そう思った。

【成果と課題】（授業整理会およびチェックシートから明らかになったこと）

（成果）☆普段の雑談や面談だけではわからない「家族との会話」「進路への不安」「進路への熱意」などを知ることができ、進路指導の参考になった。生徒自身も進路への熱意を作り出す契機になったと思われる。

（課題）★本年度は、学級担任を外れているため、四月からの継続した文章表現指導ができなかった。学級担任と連携しながら取り組む必要性を感じている。